様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年　5 月　21　日現在

研究種目：若手研究（B）
研究期間：２００７　～　２００８
課題番号：１９７００４９０
研究課題名（和文）　体育教師の「実践的指導力」の向上を目指したアセスメント・モデルの開発
研究課題名（英文）　The Development of Assessment Model on Enhancement of “Practical Teaching Skills” in Physical Education Teachers

研究代表者
岩田　昌太郎　（IWATA SHOTARO）
広島大学・大学院教育学研究科・講師
研究者番号：50433090

研究成果の概要：本研究は、2 つの研究課題を設定して研究を進めた。研究課題①では、国内外における「e ポートフォリオ」を教育実習に取り入れている先駆的な大学を調査した。研究課題②では、それらの知見を基に、体育教員養成における新しい教育実習のアセスメント・モデルを開発することを目的とした。さらに、研究課題②の成果として、簡易的に自作 PC でサーバー（CMS サイトの構築）を立ち上げ、学生の「実践的指導力」の基礎となるリフレクション能力の変容について試行的に実証した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	1,400,000	0	1,400,000
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
年度			
総　計	2,300,000	270,000	2,570,000

研究分野：体育科教育
科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学，身体教育学
キーワード：教員養成，実践的指導力，アセスメント・モデル，e ポートフォリオ

１．研究開始当初の背景

平成 18 年 7 月に中教審答申「今後の教員養成･免許制度の在り方について」の中で「教職課程の質的水準の向上」が提示され、「教育実習の改善・充実」の方策が例示された。

しかしながら、従来のわが国の教育実習には、①教職課程の全体の中で、体系的な教育実習の整備がまだ不十分である、②実習期間内に実習生たちが身に付ける技能や知識等が、実習校や指導教員に任されており、必ずしも一定した成果が保証されていない、等の問題点があると考える。

これらの諸問題を解決する糸口として、米国で採用されている「ティーチング・ポートフォリオ（以下、「TP」と略記）」が大いに参考になると思われる。「TP」とは、教師の教育実践の履歴を記録するとともに、その効果がどうであったかを子どもの学習サンプルによって実証し、反省によって、さらなる授業改善や授業力量形成を目指す道具である。すでに米国においては、現職教師や教職志望学生の「実践的指導力」を示すために作成する「TP」として活用している。またそれらを活用した結果、実習生らの反省的実践（リフレクション能力）への志向を高め、さらに教員養成カリキュラムでの成績判定や教員資

格修得までの基礎資料として利用されているとの報告がある。
　最近では、「TP」のコンテンツをデジタル化し、インターネットを介して Web 上で作成・閲覧できる、デジタル・ティーチング・ポートフォリオ（または、「e ポートフォリオ」）が主流になっている。しかしながら、わが国の教員養成系大学･学部における「TP」の導入や活用、そして数例の「e ポートフォリオ」の導入といった教育方法論からの研究は散見することができるが、各教科レベルにおけるそれらの教育効果や妥当性に関する研究は管見の限りでは見当たらない。

２．研究の目的

　そこで本研究は、（1）国内外において「e ポートフォリオ」を教育実習に取り入れている先駆的な大学の事例、とりわけ「e ポートフォリオ」の開発プロセスを知悉し、（2）これらを基に、「体育科教育法」における新しい教育実習のアセスメント・モデルを開発すること、の 2 点を目的とした。なお、目的（2）においては、この開発したアセスメント・モデルである「e ポートフォリオ」の妥当性の検証のため、学生たちに試行的に実施した。

３．研究の方法

（1）　研究計画・方法（平成 19 年度）
　平成 19 年度は研究目的欄に記載された研究目的（1）に関して、国内外の大学で調査研究した。
①米国の調査・研究
　米国の中でもトップレベルの教育水準を維持しているいくつかの代表的な大学がある州を調査した。ウィスコンシン州はウィスコンシン大学マディソン校を、カリフォルニア州はスタンフォード大学といった大学を拠点に調査した（America’s Best Graduate School（2006）を参考にした）。各大学における「e ポートフォリオ」の調査項目は，「e ポートフォリオ」の開発経緯，「e ポートフォリオ」の開発過程における問題点，「e ポートフォリオ」の開発における重点項目，「e ポートフォリオ」の実施における課題，等であった。
　調査方法としては、鈴木（2002）で述べられている「半構造化面接法」を用いて、インタビューを実施した。
＜引用文献＞鈴木淳子（2002）調査的面接の技法．ナカニシヤ出版：24-25.

②日本国内の調査・研究
A）量的な研究
　全国の 54 の教員養成系大学・学部を対象に、各大学が所有している「教育実習の手引き」を収集した。次に、その中に記述されている「教育実習の評価」という項目に記載されている評価規準および具体的な項目を整理・体系化するために、意味のまとまったカテゴリーごとに区切り、KJ 法を用いて分類した。そして、その分類から、とりわけ例をみない評価項目及び評価方法を明らかにし、わが国において実際に使用されている評価内容や評価方法の現状と課題を検討した。
B）質的な研究
　国内において教育実習で「e ポートフォリオ」を先進的に実施している信州大学、兵庫教育大学を中心に訪問調査し、資料収集を行った。とりわけ、「e ポートフォリオ」の採用経緯と実施状況の詳細については、その関係者に対してインタビューを実施した。なお、調査内容と方法としては、上記の 1）で示した方法を用いた。

（2）　研究計画・方法（平成 20 年度）
　研究目的（2）を遂行するために、前年度で得られた知見をもとに、「e ポートフォリオ」を開発した。そして、その開発したプログラムを試行的に実践し評価した。具体的な計画・方法は以下の通りであった。
1）新しいアセスメント・モデルの開発過程
　初年度に収集した膨大な資料を整理するために、大学院生等の協力を得て、開発に際しての必要な内容や重点項目を KJ 法にて分類し把握した。
　次に、「実践的指導力」を特定するために、科学研究費補助金平成 18・19・20 年度基盤研究（B）研究課題番号 18300204「実践的指導力」を育成する体育教師教育プログラム開発のための実証的研究（研究代表者：木原成一郎）（本申請者は研究分担者）の研究課題からそれに関する知見を得た。その研究では、教員養成段階における「実践的指導力」の内実を問うことになっているため、具体的な能力や適性、意欲等の到達目標及び評価規準（基準）を特定することが可能であった。
　プログラムの開発は、PC の情報に詳しい大学生に研究協力者になってもらい、CMS サイトを構築した。
2）開発されたアセスメント・モデルの試行的取組み
　開発したアセスメント・モデルは、教員養成の体育科目において、試行的に実践し評価した。

４．研究成果

(1)国内外の「e ポートフォリオ」を教育実習に取り入れている先駆的な大学の調査結果

1)国外（紙幅の関係上，1 大学のみ）
　＜ウィスコンシン大学マディソン校＞
　ウィスコンシン大学教育学部（以下、UW）は、学部生約 2,500 人、大学院生約 1,100 人を有するリサーチ大学である。また『U.S. News & World Report 2008 年度版』において、

初等、中等とも教員養成の質の高さで全米第2位にランクされている。

UW の教員養成プログラムの中では、実習に合わせた形でポートフォリオが導入されており、その目的は以下の 4 点であると述べられていた。①教師の学習と発展のため、②ウィスコンシン州で求められる教師認定のために求められる教育規準の到達度を記録するため、③教育実習後で，e ポートフォリオを用いて発表し（30 分），大学のスーパーバイザーや指導教員が審査するのに使うため、④プログラム終了後，e ポートフォリオを専門的ポートフォリオに直して就職の過程の一部として使うため、であった。①から③は教育機能であり、④は就職のためという実用、実利機能であった。

e ポートフォリオの内容は、トップページに学章や名前の下に、以下の項目がデフォルトで設置されている：autobiography（自己紹介）; educational philosophy（教育哲学）; teaching and learning（教育実践と学習）; working for diversity（多様化への取り組み）; standards（スタンダード）。それぞれの項目の中に書き込む内容やデザインは、学生にまかされていた。

2）国内

＜評価規準の特定＞

わが国において、実際に使用されている評価内容や評価方法の現状と課題を検討した。その結果、教育実習で採用されている評価規準の観点を分類し，その観点に含まれている項目を明らかにした（図 1）。

図 1 により，教育実習中の実習生が評価される視点は、「児童生徒の理解」を基盤にして，「学習指導」や「学級経営」，そして「生徒指導」といった大きく 4 つに区分されることが明らかとなった。

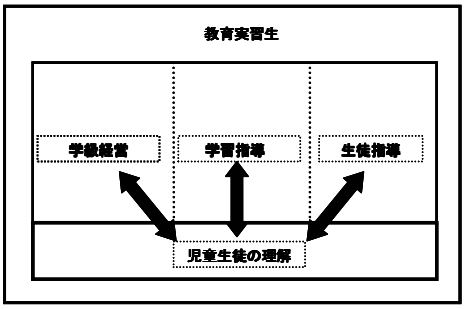

図 1　教育実習生が評価される視点の概念図

しかしながら，各大学によって教育実習の評価規準の項目は，多様化かつ混在化している。また教育実習では，「学習指導」とりわけ「授業設計」と「授業実践」が重視されている。さらに、「学級経営」に関する評価規準は，何に焦点化し，どの程度の学級経営力を求めるのかを今後検討する必要性がある。

＜e ポートフォリオの先駆的実践＞

奈良教育大学、兵庫教育大学、信州大学の 3 つの大学の事例を調査した。

全大学ともに、大学院ベースでの e ポートフォリオを開発中であり、学部レベルではまだ検討中であった。しかし、授業や教育実習一部のデータは、デジタル化して Web 上に蓄積している傾向が示唆された。

(2) 新しいアセスメント・モデルの開発と試行的実施

教員養成における「実践的指導力」の育成のために、構築したアセスメント・モデルにより、体育科目にて実施してみた。その結果，以下の 5 点が明らかになった。

1）教員養成において，とりわけ体育授業の力量形成の中心である「省察」能力の基礎を培うことが重要であり、その成果を蓄積する際に e ポートフォリオは有効であることが示唆された。

2）教員養成の体育科目では，模擬授業や MT という方法論を用いて，体育授業を設計したり，運営したり，授業中に教授技術を使用する知識や能力を育成する。その省察をティーチング・ポートフォリオとして蓄積させることで、学生たちのリフレクション能力の育成に寄与できた。

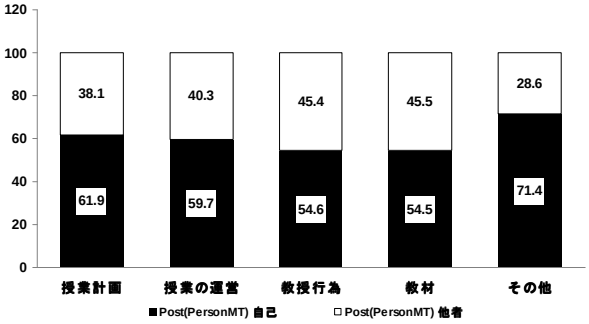

図 2　MT 後の「省察」に関する自己と他者のリフレクションの割合

例えば、図 2 は、「省察」された記述内容を自分で気づいて「省察」したものと他者から指摘されて「省察」したものとに分類したものである。その結果，他者から受けた「省察」の視点が，約 4 割を占めると報告している。すなわち，模擬授業や MT を実施する際には，ただ単に実施すればよいのではなく，批評会やデジタルコンテンツ（e.g. CMS サイトや BBC）等をうまく活用することで，「省察」能力の育成が期待できることを示唆している。

3）教育実習の充実・改善においては，以下の 2 点に留意する必要性がある。1 点目は，教員養成における体育科目（いわゆる「各教科の指導法」）との関連を考慮し，学生たちの到達度やその評価方法を改善する。

2 点目は，早期からの実習では，大学と実習校の連携（共通理解）がとくに必要不可欠であり，効果的な内容としては，授業参観のみでなく，教職の仕事を把握できるような内容にする。

4)「教職スタンダード」を評価するアセスメント・モデル（例えば，ティーチング・ポートフォリオやe ポートフォリオなど）を開発し，継続した検証による教員養成の質的保証が必要不可欠である。

しかしながら，教員養成にe ポートフォリオを採用する際には，ハード面とソフト面の2 つ側面に関する課題を克服していく必要性がある。

まずハード面では、2 つの問題点が考えられる。1 点目は、カリキュラム（プログラム）の整備である。学部段階における学生が、身に付けておくべき知識や能力の到達度や具体的な評価内容が特定されなければ，ポートフォリオの機能はうまく活用できない。2 点目は、e ポートフォリオ・システムを運営・管理するセンターの構築と充実である。e ポートフォリオは、ある程度の煩雑な操作技術が必要になる。したがって、それを苦手とする学生および大学教員も存在し、そのような学生や大学教員に対するテクノロジーに関する研修が必要不可欠である。

次にソフト面であるが、これも2 つの課題が考えられる。1 点目は、大学教員間の連携と合意形成の問題である。優れた到達目標を設定しても、それを運営かつ評価する大学教員の意識や連携がなければ、e ポートフォリオの内容も単発かつ端的な授業の蓄積にし過ぎない問題が生じてしまう。したがって、各大学教員が学内の研修会等の中でコンセンサスを得られるように努めることが期待される。2 点目は、スーパーバイザーの養成である。多様なe ポートフォリオのシステムに加えて、学生個々の到達度状況を把握するには、大学教員のみでサポートしていくには限度があると思われる。そこで、大学が雇用している専門職員（例えば、大学院生）や現役を退いた教師などをスーパーバイザーとして雇うことも必要である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 7 件）

① Shotaro IWATA., Nobukazu MATSUURA., & Akira ONO（2009）A Comparative Study of Physical Education Attainments in Japan and Scotland. International Journal of Curriculum Development and Practice. Japan Curriculum Research and Development Association . Hiroshima Journal of School Education, 15 : 195-204【査読無】

② 小林稔・萩野敦子・岩田昌太郎 ほか 4 名（2008）プラクティススクールによる教職実践演習の試行. 教員養成学研究, 4 : 65-77.【査読有】

③ 岩田昌太郎・嘉数健悟（2008）教育実習における評価規準の項目に関する研究．広島大学大学院教育学研究科紀要，第Ⅱ部（文化教育開発関連領域）, 57 : 239-300.【査読無】

④ 木原成一郎・日野克博・米村耕平・徳永隆治・松田恵示・岩田昌太郎（2008）教員養成段階で行う体育の模擬授業の効果に関する事例研究．広島大学大学院教育学研究科紀要，第Ⅰ部, 57 : 69-76.【査読無】

⑤ 岩田昌太郎・笹澤吉明 ほか 2 名（2008）教員養成最終段階におけるプラクテイススクールによる総合敵力量の形成とその明示的な確認に資する事業．平成 19 年度文部科学省教員養成改革モデル事業（教職実践演習＜仮称＞の試行）報告書 : pp.11-23.【査読無】巻なし

⑥ 岩田昌太郎（2008）学校運営力が育つ「模擬学校」の取り組み―教職実践演習の試行―．体育科教育（第 4 月号）, 56(4), 大修館書店 : 52-55.【査読無】

⑦ 木原成一郎・小柳和喜雄・岩田昌太郎（2008）イングランドにおけるインスペクション（査察）の教員養成への影響 ―ローハンプトン大学のモニタリングシステムとスタッフ研修会を中心に―．学校教育実践学研究, 14 : 1-12.【査読無】

〔学会発表〕（計 8 件）

① 嘉数健悟・岩田昌太郎（2008）中高等学校における保健体育科の教育実習生がもつ信念の検討－イメージに着目して－．第 34 回日本教科教育学会全国大会論文集 : 135‐138．宮崎観光ホテル．2008 年 12 月 6 日（口頭発表）

② 嘉数健悟・岩田昌太郎（2008）中学校保健授業におけるポートフォリオを用いた実証的研究．第 60 回中四国教育学会プログラム : 26．愛媛大学．2008 年 11 月 30 日（口頭発表）

③ 岩田昌太郎・小林稔（2008）プラクテイススクールによる教職実践演習の試行とその成果（2）－体育系 PS の質的分析－．第 44 回日本教育方法学会プログラム : 11．愛知教育大学．2008 年 10 月 11 日（口頭発表）

④ 岩田昌太郎・嘉数健悟（2008）教員養成段階の体育科目におけるマイクロティーチングの効果に関する事例研究―CMS サイト活用によるリフレクション能力の変容に着目して―．第 59 回日本体育学会早稲田大会予稿集 : 239．早稲田大学．2008

年 9 月 10 日（口頭発表）

⑤ Shotaro IWATA., & Fumio KINJO（2007）A Comparative Study of Micro-teaching and Practice Classes for Physical Education Student in Pre-service Education: a focus on the reflection and formative assessment, Program and Abstracts, Asia-Pacific Conference Exercise and Sports Science 2007：119．広島大学．2007 年 12 月 7 日（Poster Presentation）

⑥ 岩田昌太郎（2007）教員養成段階の体育科目における CMS サイトを活用した省察能力に関する事例研究 ―マイクロティーチングの実践に着目して―．第 33 回日本教科教育学会全国大会論文集：97-98．横浜国立大学．2007 年 10 月 27 日（口頭発表）

⑦ 木原成一郎・小柳和喜雄・岩田昌太郎（2007）イングランドにおけるインスペクション（査察）の教員養成への影響 ―ローハンプトン大学のモニタリングシステムとスタッフ研修会を中心に―．第 43 回日本教育方法学会プログラム：18．京都大学．2007 年 9 月 30 日（口頭発表）

⑧ 岩田昌太郎（2007）教員養成の体育授業における「実践的指導力」の育成を目指したマイクロティーチングの事例的研究．第 58 回日本体育学会神戸大会プログラム：326．神戸大学．2007 年 9 月 6 日（口頭発表）

〔図書〕（計　1 件）

① 『教職キャリアをゲットする まるごと全百科：最新カリキュラム・教員採用試験から免許更新制まで』．（分担執筆：第Ⅴ章第 3 節ほか）琉球大学教育実践総合センター編，岩田昌太郎ほか，明治図書，pp.21-23, pp.40-41, pp.123-124, pp.186-195，2008

〔その他〕

ホームページ等

http://hpe.ed.hiroshima-u.ac.jp/xoops/

６．研究組織

(1)研究代表者

岩田　昌太郎（IWATA　SHOTARO）

広島大学・大学院教育学研究科・講師

研究者番号：50433090

(2)研究分担者

(3)連携研究者